

視察調査を成功させるアポ取り 5つのコツ

(財)自治体国際化協会ロンドン事務所所長補佐 吉本 恭子 (富山県高岡市派遣)

ロンドン事務所の「自治体海外活動支援」対象国は英国、ドイツ、北欧等の9か国です。これらの国を訪問される自治体の多くは、先進的な取り組みの視察調査を目的としており、当事務所では企画相談、各国自治体事情についてのブリーフィング、アポ取りなどの支援を行っています。



東京都の依頼を受けて、ロンドンのオリンピック招致に関するブリーフィングを行いました。

しかし近年、アポイントメントの申し入れを断られることが増えてきており、当事務所でも対応に苦慮しています。日本の自治体であれば、「お互いさま」という思いで受けてもらえても、これらの国々では「会ってもこちらにはメリットがない」と判断されてしまうことが増えているのです。特に英国の自治体の財政は極めて厳しく、人員削減で余裕がなくなっているという背景もあります。

とは言え、いくつかの工夫でアポ取りの成功率を高めることは可能です。そこで今回は、広島市温暖化対策課Nさんへの活動支援事例をもとに「視察を成功させるアポ取りのコツ」をご紹介します。

1. とにかく早めに動き出す (成功率20%アップ!)

広島市企画総務局人事部研修センターからクレア本部企画調査課あてに、「9月末から2週間程の調査」の相談を受けたのは渡航の約2か月前、7月23日のことです。これくらいの時期にご連絡をいただいたことで、アポが取れない場合の代替案を考える余裕もでき、大変助かりました。アポを申し入れて

も、長期間待たされたり、揚げ句に断られたりすることが、往々にしてあるからです。

Nさんの訪問希望先の一つであったブリストル市でもこんなことがありました。国際関係担当のAさんに、8月3日にメールを送りましたが返事がなく(後に産休と判明)、16日に電話とメールで連絡したBさんからは9月3日ようやく返事があり、夏休み中だったとのこと。やっとBさんに紹介してもらった環境部門責任者のCさんは8月30日から9月24日までが夏休み。どうにも日程がかみ合わず、結局、同市にはアポが取れませんでした。

こういったこともあり、やはり2か月前には動き出すことが理想的です。

2. 動きのある自治体を探す (成功率40%アップ!)

もう1つ当事務所としてありがたかったのは、7月の時点で、Nさんの調査内容がかなり絞り込まれていたことです。ブリストル市では市の温暖化対策プランについて、ロンドン市では水素バスや電気自動車について、リバプール博物館では省エネ電力プラントの導入について聞きたいと明快でした。事前に英語のウェブサイトあたり、最新の動向を調べて、訪問先候補を選んだそうです。アポ申し入れの際に「こちらの事情についてよく調べているな」と思ってもらうことは、アポ取り成功への第一歩です。リバプール博物館からは受け入れ可能との返事がすぐありました。

ただ、ブリストル市とロンドン市からは申し込み後2週間たっても反応がありませんでした。そこで、Nさんは8月17日に、新たにニューキャッスル市を提案されました。当事務所でも同市の取り組みを調

べたところ、「2014年ヨーロッパ・グリーン・キャピタル・アワード」に立候補するなど、目立つ動きがありました。8月23日にアポ入れをしたところ、何度かのやり取りを経て、9月19日に正式に訪問の承諾をいただきました。相手が国際的なプレゼンスを高めようとしている分野について聞きたいと申し入れることは、非常に有効だと、あらためて感じたところです。

3. NGOやNPO、研究者なども候補に (成功率20%アップ!)

当事務所からはロンドン市内のチャリティー組織 Institute for sustainability、BedZED、London Remade の訪問も提案させていただきました。ドイツでも時折あることですが、自治体にアポが取れなくても、その政策の推進に協力しているNPO・NGOに話を聞かせてもらえる場合があります。こういった組織も次善の候補とされるとよいと思います。相談の結果、BedZEDの公開見学会への申し込みを、Nさんご自身にインターネットで行っていただきました。

4. 姉妹都市のコネクションを使う (成功率60%アップ!)

ドイツについては、アポ取りに先立つ調査の過程で、広島市と、姉妹都市のハノーファー市とが、共に「日独米気候政策自治体パートナーシップ（日独米の約60自治体が参加）」の一員であることがわかりました。Nさんに相談し、広島市の国際課にもご了承いただいた上で、フランクフルト市の代わりにハノーファー市にアポを申し入れることにしました。同市には大変喜ばれ、3日間の視察プログラムを自ら企画してくださいました。また夜はハノーファー・広島友好会との懇親会を設けてくださるな

広島市Nさんの調査計画と結果
テーマ「再生可能エネルギー導入・省エネ施策の先進的な取り組み」

	計画	結果（実際）
調査期間	9月23日～10月15日の間の2週間程度	9月29日(土)～10月14日(日)
英国	ブリストル市 国立リバプール博物館 ロンドン市（交通局）	ニューキャッスル市 国立リバプール博物館 BedZED（環境配慮型住宅視察）
ドイツ	ミュンヘン市（ヘラブルン動物園、市民太陽光発電所） フランクフルト市	ミュンヘン市（ヘラブルン動物園、市民太陽光発電所） ハノーファー市

ど、姉妹都市交流の強化にもつながったと思います。Nさんご自身も事前に国際課としっかり打ち合わせをされ、視察訪問を両市の友好関係の強化のために最大限活用してくださいました。後にハノーファー市の担当者から、非常によい訪問だったと、当事務所までメールをいただいたほどでした。

5. 相手に提供できる情報を持つ (成功率50%アップ!)

最後に、姉妹都市などの特別な関係を別にして、アポ取りの成功率を最も左右するポイントをご紹介します。それは先方に「この相手と会うことにメリットがある」と思わせられるかどうか、です。

例えば「環境」について日本には先進的なイメージがあり、それも今回の成功の背景にあったかと思います。ほかの事例ですが、福岡県議団の訪問をリバプール市に申し入れた際に、福岡県のビジネス環境や魅力を紹介するDVDをお送りしておいたところ、受け入れを快諾いただき、さらにビジネスチャンスについてのプレゼンテーションをしてほしいとの依頼も受けました。訪問後、リバプール市からは「これまでアジアと言えば中国で、福岡を意識していなかったが、イメージが変わった」との感想をいただきました。

「教えてほしい」というだけではなく、「意見交換をしたい」という切り口で働きかけ、「所属する自治体の取り組み（それだけで弱ければ、日本やアジアの情報も）を教えるので会ってほしい」と言えることは、アポ取りの成功率を大きく高めると思います。

これらの5つのコツを念頭に視察を企画し、アポ取りができれば、きっと実り多い視察が実現できると思います。

とは言え実際のアポ取りはケースバイケース。直前に出張が決まる場合もあるかもしれません。どんな場合でも、できるかぎりお手伝いさせていただきますので、まずはどうぞお気軽に、ロンドン事務所へご相談ください。



東日本大震災後の支援に対する謝意の表明と、風評被害の払拭を目指す宮城県の活動を支援しました。ロンドン大学での村井知事の講演には300名近くが集まりました。